

No.16

31 July 2007

日本・パプアニューギニア協会会報

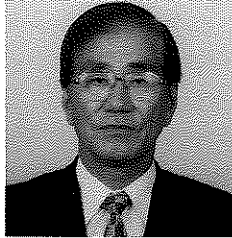
ごらくちよう

Bird of Paradise

発行 NPO法人日本・パプアニューギニア協会

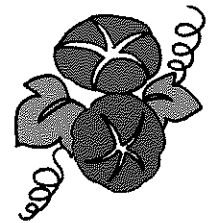
発行日 平成19年7月31日

編集 NPO法人日本・パプアニューギニア協会広報部 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館6F(ニューギニア航空日本支社内) TEL 03-5216-3555 FAX 03-5216-3556



ご挨拶

会長 山下 勝男



6月11日付けで二代目の会長に就任しました。4年前の協会の発足から現在に至るまでの困難な時期を、協会の運営のために立派に指導力を発揮してこられた谷口 誠前会長のあとを継ぐのは非力な私には荷が重いことは重々承知しています。ただお引き受けしたからには、協会の目的である日本とパプアニューギニアとの友好親善関係の促進のため、会員の皆様が楽しくかつ有意義と感じてくださるような協会の運営を目指して、微力ではありますが頑張りたいと覚悟している次第です。

私は2003年はじめから2005年末までの3年足らずの短い期間でしたが、パプアニューギニアに在勤しました。この時期はベテラン政治家ソマレ首相のもとで、パプアニューギニアとしては国内的にも比較的安定した政治社会状況下、日本とパプアニューギニアとの二国間関係は政府レベルでも民間レベルでも特段に難しい問題もなく、むしろ友好親善関係が一層深まった時期に当たったこともあり、私自身日本大使としてお蔭様で非常に楽しく仕事をさせていただきました。その上に光栄なことに、帰国後の昨年、パプアニューギニア政府より勲章をいただくことになり、去る5月はじめマウエ大使閣下の特別のお計らいで大使館において勲章伝達式を開催していただきました。勿論個人的には名誉ある勲章をいただいたことは大変嬉しいことではありますが、これは私個人に対する評価ではなく、今日の両国友好関係の基礎を作っていただいた多くの方々、戦前戦中戦後を通じてさまざまな分野でパプアニューギニアとかかわりを持ってこられた我々の先輩達の功績、さらには現在ビジネスあるいはボランティアの形でパプアニューギニアの人たちとの交流を通じて良好な関係樹立のために日々尽くしておられる当協会会員はじめ数多くの民間の方々の方々の功績に対する評価だろうと思っています。

私は今までの外交官生活の間、異なった国に駐在するたびにこの国の人たちは日本および日本人に対してどん

なイメージを持っているのだろう、もし悪いイメージを持たれていたらどうすれば改善できるのだろうかと考え続けた40年間でした。ある国政府の日本に対する政策が、その国の人々の対日イメージ、特にその国の指導者の対日イメージに影響されながら決定されてきた過程を目撃してきました。1981年に開始されたマレーシアのマハティール首相(当時)による対日接近・友好政策(ルックイースト政策)の開始は、「勤勉・規律正しい・忠誠心が高い」という同氏の日本人に対する好ましいイメージが大きく影響したことは周知の事実です。その結果、日本とマレーシアの関係は人の往来、文化交流、貿易・投資関係等あらゆる分野で従来に比して飛躍的に緊密化したことはご承知のとおりです。幸運なことに在勤中に私はソマレ首相と個人的に親密な関係を持たせてもらいましたが、感銘を受けた2人の日本人の名前を幾度となく聞かされました。いずれも故人ですが、一人は軍人の柴田氏、もう一人は元日本船舶振興会会長の笹川良一氏でした。前者は植民地時代のソマレ首相の幼年期、後者は豪州からの独立を控えた70年代のはじめソマレ首相が祖国の独立運動のなかで政治に目覚め始めた時期に、いずれも強烈な印象を与えた外国人であったようです。お二人との交流を通じて、ソマレ首相は上記の例と同様に、日本人の中に勤勉、規律正しくかつ弱者の面倒も見てくれる人間像が描かれ、これが同氏の日本、日本人に対する好ましいイメージ形成、親日的姿勢へとつながっていったものと思われれます。先輩たちに負けないぐらい好ましい日本人になれるよう私も会員の皆様と力を合わせて、パプアニューギニアの人たちが一人でも多く日本(日本人)に対するよき理解者、親日家となっただけのようそれぞれの得意な分野で頑張りたいと思います。

最後になりましたが、谷口会長、長い間協会の発展のためにご尽力いただき有難う御座いました。会員を代表しまして改めて厚く御礼申し上げます。

以上をもちまして会長就任のご挨拶と致します。

# 忘れられないパプアニューギニア

前会長 谷口 誠

私の長い外国生活の中で、最もエキゾチックで忘れたい経験をした国はパプアニューギニア(PNG)である。当時首都ポートモレスビーは、お世辞にも治安がよいところとはいえず、外務省員にとってあまり有難い任地ではなかった。私はそれまでにジュネーブやニューヨークで国連関係の仕事をしており、世界の最先端をいく地から、独立後8年しか経ていないPNGに着任することは、それなりの決心が必要だった。

しかし、私はこれまでに国連で開発途上国問題に取り組んできたので、途上国の現実を知るまたとないよい機会だと気持ち切り替え、周囲を見回してみた。すると、素晴らしい自然があり、太平洋戦争の激戦地であったにもかかわらず人々は親日的で、日本のわずかな援助にも感謝された。

さらに、私にとって嬉しかったことは、現地駐在の日本人コミュニティが、マラリア、治安や生活環境の悪さをもとめせず、お互いに助け合い、肩を寄せ合って生きていたことである。着任後ほどなくして、大使館を開放し、大使館と同じ建物に事務所のあった商社のスペースも借り、毎土曜日、生徒20人余りの日本語補習校を開校することができた。先生役を引き受けて下さったのは、現地駐在員、JICA、青年海外協力隊員の中で教員免許を持っている方々で、学齢期の子供をもつ父兄の日本語補習校が欲しいという切実な願いを日本人コミュニティが丸となって実現させたのである。まさに手作りの補習校だった。

また楽しかったことは、PNGではソフトボールが盛んで、ポートモレスビー在住の日本人コミュニティを中心に「富士チーム」を結成し、リーグ戦に参加した。毎年、9月から3月にかけて、土、日曜日には、青年海外協力隊、商社や企業の現地駐在員、大使館員などが集まって、PNGのチームとゲームを楽しんだ。私も「富士チーム」の一員として頑張り、3年目には念願のAリーグ入りを果たした。

そして最も印象に残る出来事は、1985年に中曽根総理ご一行約150名がPNGを公式訪問されたことである。ご一行には、総理ご一家、安倍外務大臣、ご令息の晋三氏(現内閣総理大臣)、渡辺前大蔵大臣、ご令息の喜美氏(現内閣府特命担当大臣)、その他数名の議員と多くの新聞記者が参加された。このような大

部隊が訪問されることは、小さな大使館にとっては、お盆と暮と一緒にやってきたような大変な出来事なのだが、大使館のみならず、日本人コミュニティが一致協力して何とかやり遂げることができた。特に、昔おすし屋に勤めたことのある青年海外協力隊員がゴロカからやってきてくれて、ご婦人たちを指導して、150人分ののり巻きを作り、中曽根総理からお褒めの言葉をいただいた。

PNGでの約3年半の勤務から得た経験は、その後の私の人生においても貴重な財産となった。私は、日本・PNG協会の初代会長を4年務めさせていただき、今年度より会長職を離れることになったが、PNGに対する思いは特別である。これからもPNGでお世話になった方々と、昔や今を語り合うのを無上の楽しみにしている。

最後になりましたが、この4年間、私を温かく支えて下さった会員の皆様から御礼を申し上げ、当協会のますますの発展を祈念いたします。

.....

## 第4回 理事会、総会を開催しました。

2007年6月11日、パレスビル(東京都大手町)にて第4回理事会、総会が開催されました。

今回は、谷口誠会長が任期満了となり、山下勝男氏が新会長として就任しました。山下新会長の意欲的な抱負が述べられ、今年度の活動計画が活発に討議されました。

総会后、場所をレストランスワンに移し、懇親会となりました。谷口会長、山下新会長が、参加して下さった会員の皆様の前で、かたく握手を交わし、無事会長職が引き継がれました。



かたい握手で会長職が引き継がれる  
谷口会長(左)と山下新会長(右)

### 平成19年度 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会 役員一覧

名誉会長	山下 徳夫 (元運輸大臣、元衆議院議員、元日本・パプアニューギニア友好議員連盟会長)
名誉顧問	大河原 良雄(財団法人世界平和研究所理事長、元駐米大使)
名誉顧問	マイケル・マウエ 駐日パプアニューギニア特命全権大使
顧問	日本・パプアニューギニア友好議員連盟の諸先生 [代表 伊藤 公介(衆議院議員、日本・パプアニューギニア友好議員連盟会長)]
	堀江 正夫 (東部ニューギニア戦友会会長、元参議院議員、元日本・パプアニューギニア友好協会会長)
	菊本 享(全国ソロモン会事務局長)
会長	山下 勝男(財団法人霞山会事務局長、前駐パプアニューギニア大使)
名誉顧問(理事)	谷口 誠(岩手県立大学学長、元パプアニューギニア日本大使、元日本国国連大使)
副会長(理事)	高松 裕満(協和海運株式会社 代表取締役社長)
副会長(理事)	鈴木 紀久代(新潟パプアニューギニア協会 事務局長)
副会長(理事)	唐沢 敬(立命館大学名誉教授、東京国際大学国際関係学部国際教育プログラム顧問)
理事長	宏行(オイスカ国際ナショナル 地域第3部 部長)
理事	都梅 博之(伊藤忠商事株式会社プラント・プロジェクト第1部 部長)
理事	畑中 幸子(中部大学名誉教授、文化人類学者)
理事	原 晃(JICA国際協力総合研修所 国際協力専門員)
理事	福島 正光(株式会社ビーエムコーポレーション 代表取締役)
理事	石神 雅人(有限会社PNGコーヒージャパン 代表取締役)
理事	山邊 登(日本・パプアニューギニア旅行業協会 会長)
理事	賀集イレーネ(アルゼンチン共和国弁護士)
理事	中村 弘(兎和木材株式会社 代表取締役社長)
理事	馬詰 修(三高物産株式会社 代表取締役)
理事	村越 裕之(コスモメティア株式会社 代表取締役)
理事	武藤 優(株式会社パプアニューギニア海産 代表取締役)
理事	大沼 京三(株式会社日本墓苑開発センター 代表取締役)
監事	土屋耕太郎(土屋法律事務所弁護士)
事務局長(理事)	島田 謙三(ニューギニア航空 日本支社長)

“二人のPNG青年、アカ君、スケネ君、武相マラソン(町田)出場のため来日”日記

志村 容一(当協会会員)

2007年4月21日、成田空港午後6時到着。我々は到着ロビーを目指し、早足で指定のゲートへ。案内板によると、ニューギニア航空は「遅延」と表示、約1時間遅れとの事。軽く食事を取りにレストランへと移動。連休前でかなりの人ごみ。軽く食事を取り、到着ロビーへ。10分、20分……到着のサイン! 皆、PNGの旗を用意……出てこない……カメラマンらしき人に声をかけられる。「マラソン関係の人ですか? 彼らはマラソンについて質問されています。まもなく通過するでしょう……」との事。30分、1時間……ターミナルに「ライオンズクラブ様」……との放送。急いで近くのカウンターへ。電話に出る。二人を確認。5分程しただろうか、出口より現れた! PNGの旗を見て一目散、約2時間の遅延だそうだ。



PNGの旗を見て一目散のスケネ君(右)とアカ君(左)

成田からバスに乗り、一行は町田へ向かう。東関道あたりはまだ高速道路のまわりが薄暗く、話が盛り上がっていた。ところが首都高速付近、東京タワーが近づくとつれ、二人の様子が変わってきた。右側、左側、前方、後方のビル“あかり”、車の台数、救急車のサイレン……見るもの、聞くもの、すべて初体験であろう。

22日、地元鶴見川で“鯉のぼりフェスティバル”準備に参加する。しかし、スケネの様子がおかしい。額に手を当てる。熱い! 風邪か……日曜日なのでどこも休みである。知り合いの竹本医院へ急行。3時間ほどの点滴。薬をもらい帰宅。空腹で薬を飲まないようにとの注意。駅前のスーパーで焼芋を購入。

23日、前日の焼芋が「効いた」とスケネ元気な様子。皆一安心。今日はマラソン大会で走ると言う市長と面会。やや緊張気味な二人。お互いエールを交換した。

翌日、都庁、国会を見学し、午後よりいよいよトレーニング参加。競技場の色彩にびっくりした様子。しばらく赤い土を手で調べていた。

26日からは地元国土舘大学の駅伝クラブの選手と合同練習。ひとまわり大きな選手に少しびっくりした様子。わりと早いペースで約20kmを走る。アカ君、スケネ君、共に完走。コーチの五十嵐さん「すばらしい走り」と太鼓判。

27日は実コースの下見。給水所、坂道……念入りに質問する二人。午後は又、選手たちとの合同練習。

28日、前日のため、軽いトレーニング程度で切り上げ。前夜祭という事でマイケル・マウエ大使と夕食会。二人とも活を入れられ、少し緊張気味! 明日はいよいよ本番だ。

東京町田クレインライオンズクラブ  
会長/志村容一  
チャリティー委員長/成岡圭子  
YE委員長/金子安男  
PNG委員長/小玉一男

SERIES  
PNG最高峰  
ウィルヘルム山登頂記 ②

賀部 祥平(当協会会員)



賀部 祥平(かべしょうへい)  
当協会会員。2005年1月にバブアニューギニア最高峰の「マウントウィルヘルム」へ登頂。2005年11月発行の「バブアニューギニア ソロモン諸島 トラベルガイド」の取材及び撮影の為にバブアニューギニアを訪れ、その後もバブアニューギニア各地を旅する。  
2005年11月22日にラバウルで開催された「南太平洋盆踊り大花火大会 2005」では、大会実行委員の一員として参加。

ピュンデ湖ロッジへ向け出発

目が覚めて外へ出ると、鳥のさえずりが聞こえ、綺麗な花が咲き乱れています。目が癒され、鼻が癒され、耳が癒される。こんなに清々しい朝は何年ぶりでしょうか。

天候は曇り、気温17℃です。暑くも寒くもなく、過ごしやすい気候です。今日は標高3,550m、ピュンデ湖ロッジに向けて出発

です。

私はカメラ機材がたくさんある為、プライベートポーターをお願いしました。担当してくれたポーターはマイケル。背が高く細身ですが、今回で登頂9回目だそうです。そして買ってきた長靴を履き、簡易アイゼンを装着して出発です。

ピュンデ湖のロッジまで予定では5時間。すでに標高2,500mを超えているのですが、高度障害などは一切感じません。登山道は時折降る雨のせいなのか、まるで田んぼのようです。あっという間に長靴は泥だらけになりました。そんな中、現地のポーター達の大半が裸足なのに驚かされます。しかも泥だらけの道を足の裏に吸盤でもついているかのように一步一步滑らずに登って行くのです。足の指の力がかなり強いのでしょうか。



ポーターの力を借りての沢渡り

ロッジを出て3時間、休憩ポイントでなんと極楽鳥の鳴き声が聞こえます。確認するのですが姿が見えません。結局姿を見ることは出来ませんでした。鳴き声を聞いただけでとても幸せな気持ちになりました。時計の高度計ではもう3,000mを超えています。もう一息で今日のベースキャンプ地となるピュンデ湖の畔に到着です。私にとってはもう完全に未知の高度ですが、高山病による頭痛や息苦しさはまったくありません。少し行くと水の流れる音が聞こえます。その正体は大きな滝でした。この先のピュンデ湖から流れ落ちる水なのでしょう。近くで見る滝は大迫力です。そして、滝を越えると山小屋が見えて来ました。

標高3,550m、今日の宿泊施設であるピュンデ湖ロッジに到着です。いよいよ今夜の深夜1時、山頂へのアタック開始です。



登山道よりピュンデ湖を望む

日本・パプアニューギニア協会  
法人会員紹介 第9回

みなさん、こんにちは。  
「コスモ石油株式会社です。」

〒105-8528 東京都港区芝浦  
1-1-1 東芝ビル  
TEL03-3798-3134  
FAX03-3798-3103

コスモ石油株式会社は、1986年に大協石油株式会社、丸善石油株式会社および両社の精製子会社である旧コスモ石油株式会社の3社が合併し、発足いたしました。原油の自主開発から石油製品の製造から流通販売にいたるまで、上流から下流までカバーした石油事業を行っています。

コスモ石油では、2002年に「コスモ石油エコカード基金」を設立いたしました。コスモ・ザ・カード・オーパス「エコ」、コスモ・ザ・カード「エコ」会員のお客様からお預かりした寄付金と、コ

スモ石油グループの売上の一部を合わせ基金とし、国内外の環境保全活動や環境教育プロジェクトを支援しております。

私たちはこれらのプロジェクトを『ずっと地球で暮らそう。』プロジェクトと呼んでいます。パートナーはNPOやNGO、研究機関。さらに地域社会や政府の皆様のご協力をいただき、「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトを推進しています。

その中心的なプロジェクトとなるのが、PNGで2002年より支援している「熱帯雨林保全プロジェクト」。日本の民間団体とともに現地住民の方々と協力しながら、焼畑農業から定地型農業への移行、有機農業の技術支援など持続可能な発展のための地域開発支援を行ってきました。



定地型稲作普及(ポミオ)

PNGでのプロジェクトパートナーである(財)オイスカが、ラバウルで運営する「エコテックセンター」では、各地から研修生を受け入れ、定地型農業の研修を行ない、稲作の普及に努めています。また、その普及に伴い稲作が拡大しようとしている村へは精米機を設置しました。さらに、稲作と並行して畜産を行ない、飼料や肥料を作るための製造小屋の建設にも着手しました。

このような技術者育成プログラム支援とモデル研修農場運営支援活動が評価され、2004年度にはPNG政府よりコスモ石油エコカード基金活動への全面的な支援をいただくことができました。

2006年度からの新たな活動として、地域の自然環境に関する啓発を生きた野性動植物や作物を通して伝えるために、地域の中心部であるココポにて、「ココポ自然環境公園」構想をスタート。州政府とのマスタープランも決定し、建設に着手しました。

コスモ石油は、これからも『ずっと地球で暮らそう。』を合言葉に、PNG政府そして地域の皆様と持続可能な社会の実現に向けた活動を継続してまいります。

事務局からのお知らせ

2007年  
パプアニューギニア独立杯  
ゴルフ・トーナメントのご案内

PNG大使館が、日本・PNG議員連盟、当協会の協力の下、下記のようにゴルフ・トーナメントを開催します。

奮ってご参加ください

会場:21センチュリー富岡ゴルフ場  
(群馬県富岡市)

開催日:2007年9月22日(土曜日)

お申し込み・詳細については

PNG大使館(担当:城ヶ瀧 道和様)  
までご連絡ください。

\*E-mail: jyogataki@png.or.jp

\*電話03-3454-7801

\*ファックス03-3454-7275

晃和木材(株)が  
PNGへ学用品、雑貨を寄贈

晃和木材(株)は10月中旬に岩手県宮古から出港予定の原木船でENB州オープンベイ地区の子供や住民に学用品や衣類、雑貨(中古も含む)を寄贈するため船積みします。

この寄贈に参加ご希望の方は下記へご連絡ください。

宮古までの宅急便代は自己負担となりますが、それ以降の費用は全て晃和木材(株)が負担します。

連絡先:晃和木材(株)海外事業部

担当:小川みき様

E-mail:ogawa@kowlalumber.co.jp

電話03-3865-9080

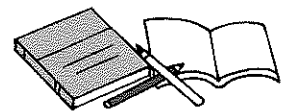
編集後記

4月から6月は年度の変わり目で、皆様お忙しかったことと思います。

執筆者の方々には心から御礼申し上げます。

事務局も、会長はじめ新しい理事のメンバーと共に19年度も頑張っていきたいと思っています。

よろしく願い申し上げます。



日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会では、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的として、文化、学術、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

申し込み方法 / 郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。  
年会費 / 個人会員 5,000円 法人会員 50,000円 PNG人 1,000円  
会費受付 / 郵便振替口座をご利用ください。

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。  
\*会員数 2007年6月末 法人会員 / 個人会員 / 集計中

口座記入 / 番号 00140-2-277582  
加入者名 / 日本・パプアニューギニア協会  
問合せ先 / 日本・パプアニューギニア協会 事務局

〒102-0074  
東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館6階  
(ニューギニア航空 日本支社内)  
電話:03-5216-3555 FAX:03-5216-3556  
E-mail:info@air-niugini.co.jp